

選択的夫婦別姓に関するアンケート調査

自由回答の分析結果

～7,582名の大規模データから読み解く研究者コミュニティの実態と提言～

所属学会・年齢層・婚姻歴も多様な「姓」に関するリアルな声を可視化



サンプルサイズ: 7,582名

(一社) 男女共同参画学協会連絡会 理事・副会長 (第23期)
高山 範理 (日本森林学会／森林総合研究所)

調査概要 調査期間：2025年4月3日～5月31日



調査対象
学協会会員（研究者・技術者）



主な設問項目
結婚および姓、改姓経験の有無、意見や自由コメント



調査目的
研究者・技術者の結婚・改姓の状況、学術キャリア・職業生活への影響とともに、選択的夫婦別姓導入への意識及びその意義を明らかにする

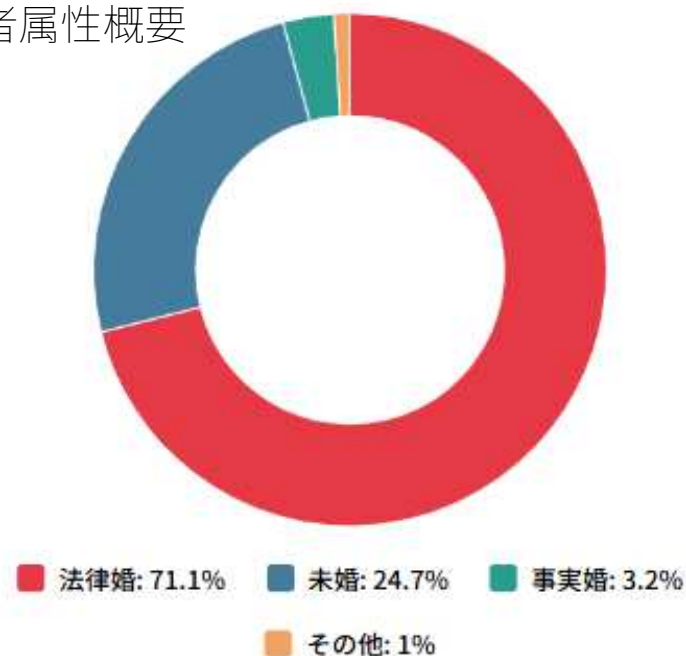


調査手法
定性的分析（自由回答）と定量的分析（属性等）の組み合わせ

7,582名

有効回答数

回答者属性概要



選択的夫婦別姓への意見分布

総回答者数7,582名のうち、選択的夫婦別姓制度について以下の意見分布が見られました。

圧倒的多数（67.2%）が賛成を表明しており、研究者コミュニティでの強い支持が確認されています。

賛成
67.2%
5,096名

反対
20.6%
1,560名

わからない／その他
12.2%
927名

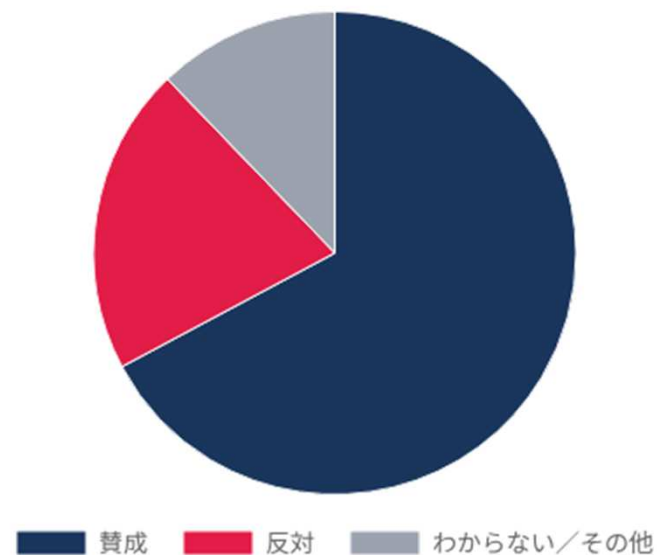
注目ポイント

- ・全回答者の3分の2以上が制度導入に賛成
- ・賛成率は反対率の3倍以上を示す
- ・明確な反対意見は全体の約5分の1

67.2%

選択的夫婦別姓への賛成率

選択的夫婦別姓への意見分布



資料：一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会23期事務局 | 2025

年齢・性別・婚姻歴別の賛成率比較

年齢層別の支持傾向

- 20-30代: 66.6%
若年研究者層でも高い支持率
- 60代以上: 71.6%
シニア研究者層での高支持が特徴的

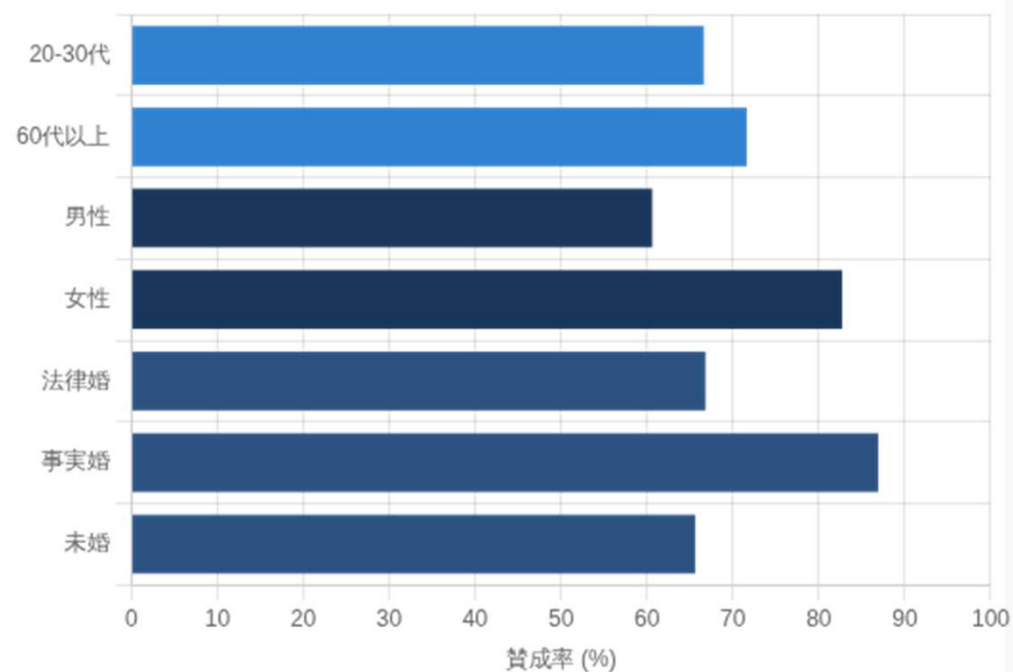
性別による意見差

- 男性: 60.6%
6割超が制度賛成
- 女性: 82.7%
8割超の圧倒的支持

婚姻歴別の賛成率（全体：67.2%）

- 法律婚: 66.8%
- 事実婚: 86.9%
事実婚経験者の強い支持が顕著
- 未婚: 65.6%

属性別賛成率の比較



調査から判明した重要点

- ・世代間の賛成率に大きな差はなく、全世代的な支持傾向
- ・性別による意見差が最も顕著（女性の支持率が22.1ポイント高い）
- ・事実婚経験者の高い支持率は実体験が影響か

主な賛成意見（1,882件：68.7%(n=2,738)）

1. はじめて改姓による不利益を実感したのは、メインバンクで旧姓名義の維持が難しく**各種登録情報の更新が煩雑**だったこと。先輩たちが経験した改姓起因のトラブルも多く聞いてはいたが、銀行口座への旧姓使用の可否など実務の壁が大きい...（女性・30代・国立大学）
2. 両親は制度化を期待して**結婚を1年ほど猶予**したが実現せず、結局「結婚後に女性が改姓するのが当たり前」という空気に従った。自分の世代でもこの**前時代的な感覚**は根強く、選択的夫婦別姓の導入が必要だと感じる...（男性・20代・国立大学）
3. 夫婦別姓制度がないため私たちは事実婚を選択している。**事実婚という形でしか別姓を維持できないことが生活のあらゆる場面で障害・ストレス**となる。（男性・50代・企業技術者）
4. 自分是对象ではないが、外字や表記ゆれで行政・金融・研究上の「氏名同一性」の確保が難しい事例を多く見た。正字・通称・ローマ字表記の齟齬が**研究者の実績紐付けや本人確認で大きな問題**となるため、姓の決め方の自由度拡大を望む...（男性・50代・私立大学）
5. 私自身は改姓していないが、パートナーが法律婚で改姓した負担は大きかった。**事実婚期間には不妊治療の手続きや住宅ローンの共同申請ができない**など課題が多く、法的な選択肢が広がれば不利益は軽減できるはず...（男性・50代・国立大学）

主な反対意見（523件：19.1%(n=2,738)）

1. 選択的夫婦別姓では「改姓で業績が途切れる」と言うが、研究者は自己申告で実績を整理して出す仕組みもあり、姓の違いで評価が失われるとは限らない。**運用で解決**できる部分が多いのでは...
（男性・40代・国立大学）
2. キャリアや実績は名前と結びついており、姓変更でつながりが途絶える懸念は理解するが、旧姓と新姓の**使い分けで対応は可能**だと思う。結婚＝改姓＝キャリア中断、という前提はやや極端では...
（女性・30代・私立大学）
3. 現行は夫婦同姓だが、男女どちらの姓を名乗るか選択でき、話し合いで決められる点で平等。通称や旧姓併用の**運用拡大の方が現実的**で、法改正は不要だと感じる...（女性・30代・国立大学）
4. **子どもの姓・学校や医療での実務負担**が増える。親子で姓が異なると、学校の届け出や病院での本人確認・同意手続きで毎回説明が必要になり、**子ども側の心理的負担**も懸念される...（女性・40代・公立大学）
5. 妻は同姓を嬉しいと言っていた。夫婦・親子で別姓になると説明や実務が複雑になり、**伝統や文化、戸籍制度にも影響**が出る。**社会の秩序に与えるインパクト**が大きく懸念している...（男性・40代・国立大学）

自由記述キーワード分析

自由記述回答の分析結果

7,583名の回答者による自由記述から、研究者コミュニティが直面する姓に関する問題を可視化。複数のキーワード出現頻度を分析し、その深刻さを明らかにした。

⚠ 不利益・困難

886回言及

改姓による具体的な不利益や困難の事例

📁 手続き・事務

719回言及

煩雑な事務手続きの負担

👤 アイデンティティ

377回言及

研究者としての自己認識や社会的アイデンティティへの影響

🌐 国際活動

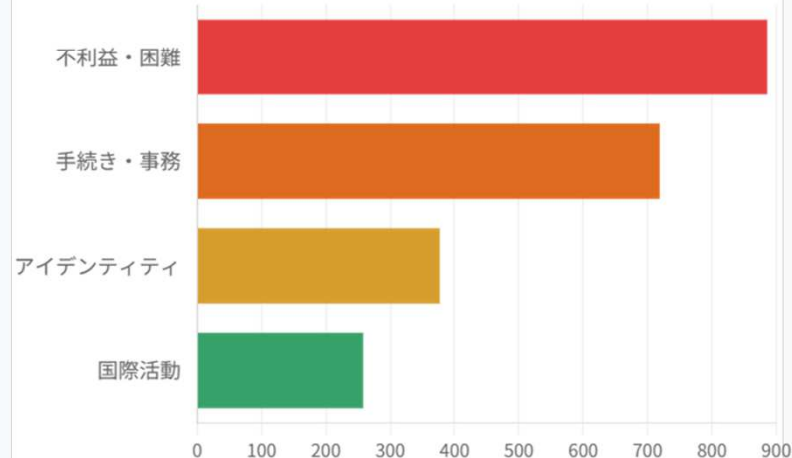
258回言及

国際研究活動や海外との交流での支障

2,240+

キーワード言及総数

キーワード出現頻度



不利益

手続き

国際活動

アイデンティティ

論文著者名

業績管理

本人証明

不利益・困難（886件）

1. 学術実績・論文名義の分断

業績の一貫性が保ちにくい（女性・50代・私立大学）。

文部科学大臣表彰若手科学者賞という栄誉ある賞を受賞したのに、賞状は戸籍名しか許されなかった。（女性・50代・国立大学）

2. 金融・公的手続（銀行口座／証明類）の煩雑化

銀行・カード・年金・共済・パスポート等で名寄せや再手続きが多重化。

代表例：「メインバンクで旧姓維持が難しく、住所等の登録変更も複雑。各機関での名義整合に大きな負担」（女性・30代・国立大学）

3. 職場システム・ID/メール等の変更負担

学内システム、人事・教務、研究費・旅費精算、メール/アカウント、名刺・印鑑まで広範に影響。

代表例：「通称・戸籍名の使い分けで書類作成や提出名義が揺れ、詐称と誤解されないか不安」（女性・50代・私立大学）

4. 郵便物・配送・宛名の混乱

通称使用における旧姓／新姓・世帯表記の誤解で誤配・手書き訂正・当事者への心理的負担。

代表例：「事実婚中にも関わらず、郵便局で勝手に夫姓へ書き換えられた郵便物が続き、周囲からも改姓を迫られた」（女性・50代・公立大学）

5. 通称申請に伴うプライバシー露出・現場混乱

通称使用の学内周知で私事が広く共有／本人確認の現場で照合停滞。

代表例：「守衛で通称と身分証の氏名不一致が問題化し、同伴者を待たせる事態に。通称の全学アナウンスで私事が広く知られた」（女性・50代・国立大学）

手続き・事務（719件）

1. 研究応募・業績提出の名寄せ作業

改姓で旧姓／新姓の**名寄せ**や**業績リスト作り直し**が発生し、提出前の**照合作業**が恒常化。

代表例：「応募のたびに旧姓・新姓で業績を整理し直し、書類一式の整合確認に時間を取られる」
（男性・40代・失業者）

2. 銀行・公的証明の名義変更ラッシュ

銀行口座・住所・各種登録の変更が複数機関で連鎖し、窓口対応と**再提出**が重なる。

代表例：「メインバンクで旧姓維持が難しく、名義・住所変更や証明の取り直しが続いた」（女性・30代・国立大学）

3. 通称／戸籍名の使い分けに伴う提出混乱

学内外の書式で**通称と戸籍名**が混在し、**提出名義の揺れ**や**詐称誤解**の不安が生じる。

代表例：「通称使用を説明しても書類ごとに記名が揺れ、詐称と見なされないか不安が残る」
（女性・50代・私立大学）

4. 共済・年金・各種証明での名義不一致対応

戸籍名と通称の混在により、共済・年金・保険証・各種証明で**都度の証明添付や照合**が必要となり、申請・更新のたびに**書類差し戻しや再提出**が発生する。

代表例：「通称使用を事務に説明しても、書類ごとに記名や証明の要件が異なり、どの名前で提出すべきか毎回確認が必要。詐称と誤解されないかも不安」（女性・50代・私立大学）

5. 郵便・届け出での宛名不一致対応

宛名の自動（手書き）修正や誤配が起き、**訂正・説明**の手間と心理的負担が継続。

代表例：「旧姓で届く郵便物が在籍者不在、**居住者ではないとして差し戻されたことが3回ある**」（女性・40代・国立大学）

アイデンティティ（377件）

10

1. 著者名の分断による“別人扱い”感覚

改姓で著者名が分かれ、**検索や評価の場で過去実績と現在がつながらず**、研究者としての継続的アイデンティティが揺らぐ。
代表例：「応募のたびに旧姓・新姓で業績を並べ替える必要があり、**同一人物として見てもらえているのか不安になる**」（男性・40代・失業者）

2. 旧姓で周知されている自分と戸籍名の自分の分裂

学内外で旧姓で知られている一方、公的手続きは戸籍名で進むため、呼称と記録の二重管理が続く**“自分らしさ”**が削がれる。
代表例：「旧姓名義の口座や研究関連の名義変更が難しく、**窓口での説明で『なぜ名前が違うのか』**を常に問われる」（女性・30代・国立大学）

3. 現場での本人同一性の疑義による“存在の中断”感

通称／戸籍名の不一致が、入館や本人確認の場で**“自分が自分として通らない”**体験を生み、研究活動の場での自己認識に傷がつく。
代表例：「入館時に通称と身分証の氏名不一致で足止めされ、**同行者の前で本人性を説明し続けるのが苦痛**」（女性・50代・国立大学）

4. 改姓回避（事実婚選択）による“周縁化”の自己感覚

研究名義の継続を守るために改姓を回避し事実婚を選ぶことで、制度上の不利益や周囲の誤解が増え、**“正規の研究者・家庭”**でない感覚が生じる。
代表例：「改姓を避けるため事実婚だが、将来の子や学校での説明を含め、社会の目に**“周辺の”に置かれる不安**がある」（女性・30代・公的研究機関）

5. 改姓のジェンダー偏在が“公平な評価主体”感を損なう

改姓負担が女性側に偏りがちで、研究者としての評価・キャリア形成も不均衡に感じられ、**職業的アイデンティティへの納得感が薄れる**。
代表例：「男性が改姓すると**必ず理由を問われ**、制度全体でも改姓は女性に偏る。研究者の評価が名前で左右される現状は不平等」（男性・20代・企業研究者・技術者）

研究者特有の困難事例



論文検索の断絶（不利益・困難）

改姓により、過去の業績と現在の業績が別人として扱われ、論文データベースでの業績検索が困難になる。査読者や評価者に旧姓での業績を認識してもらえないケースも多発。



証明書負担（手続き・事務）

異動・昇進時に旧姓と現姓の関連を証明する書類の追加提出が必要。戸籍抄本や証明書類を頻繁に取得・提出する負担が大きい。



システム不一致（手続き・事務）

学会システムでは旧姓、公的書類では戸籍姓が求められる、二重管理の煩雑さが発生。学会の名簿と戸籍名が不一致で手続きや認証に問題が発生。



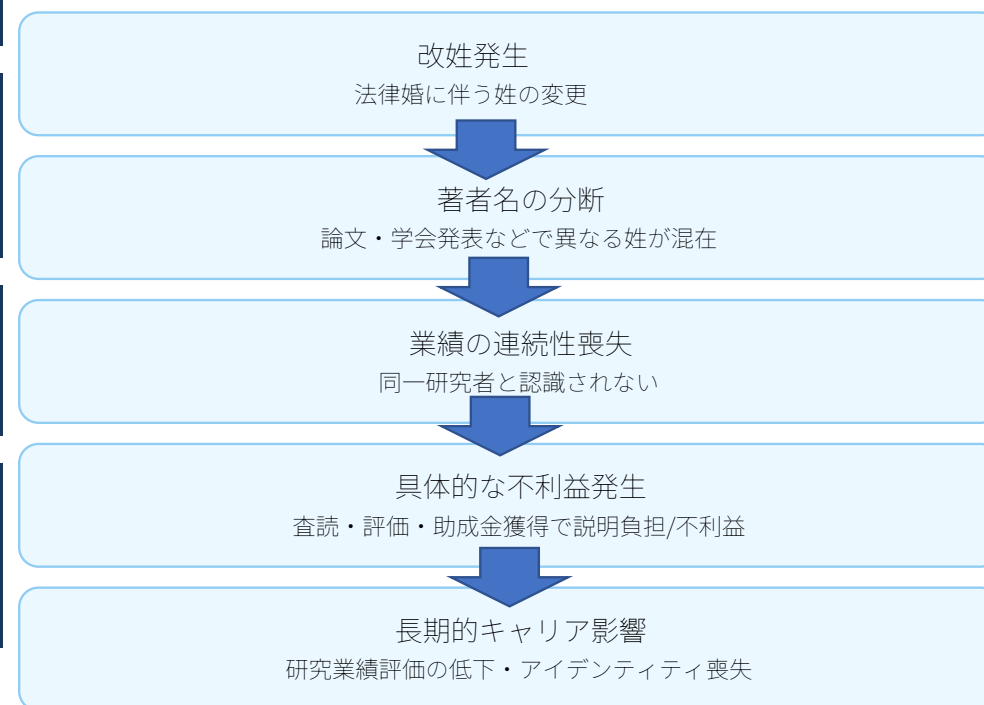
アイデンティティの分断（アイデンティティ）

研究者としてのアイデンティティと法的な姓が分離することで、プロフェッショナル・アイデンティティの喪失感や混乱が生じる。

80%超

研究者（改姓者）が業績の連続性喪失を経験

改姓による学術活動への影響の流れ



1. パスポートと搭乗手続の氏名不一致

旧姓併記や改姓後の英字氏名が航空会社・空港の自動チェックインやパスポートコントロールで一致せず、毎回説明・確認が発生。

代表例：「パスポートは旧姓併記だが、自動読み取りが旧姓を拾ってしまい自動チェックイン不可。審査でも氏名不一致の説明が必要になった」（女性・40代・国立大学）

2. ビザ申請／入国審査での書類名義ズレ

改姓・通称と旅券／招へい状などの英文書類が一致せず、追加書類や再申請、窓口での度重なる説明が必要に。

代表例：「学生期の改姓後、海外出張のビザ関連で書類の氏名統一に手間取り、機関側への繰り返しの説明が発生した」（女性・40代・公的研究機関）

3. 学術出版社の投稿／査読システムでのアカウント分散

旧姓／新姓でScholarOne／Editorial Manager等のアカウントが重複・分断し、査読依頼や採択通知の受領漏れ、査読履歴の継続記録が途切れる。

代表例：「改姓後に投稿・査読システムの登録名が旧姓／新姓で二重化し、連絡が片方にだけ届くなどコミュニケーション不全が発生」（女性・30代・国外私立大学）

4. 国際会議／共同研究での本人同一性の疑義

通称／戸籍名・バッジ表記／旅券名の不一致から、会場受付・施設入館で足止めや再確認が生じ、同行者にも影響。

代表例：「通称で事前登録、当日は身分証が戸籍名で照合が長引く。現場で本人性の説明を繰り返す羽目になった」（女性・50代・国立大学）

国際活動への影響



パスポート名義と学術名義の不一致
自由記述で258回言及された深刻な問題



VISA・渡航手続きの障壁
論文著者名とパスポート名が異なることによる
入国審査の問題



国際会議・招待講演での混乱
学会登録名と本人証明書類の不一致による参加・登壇
トラブル



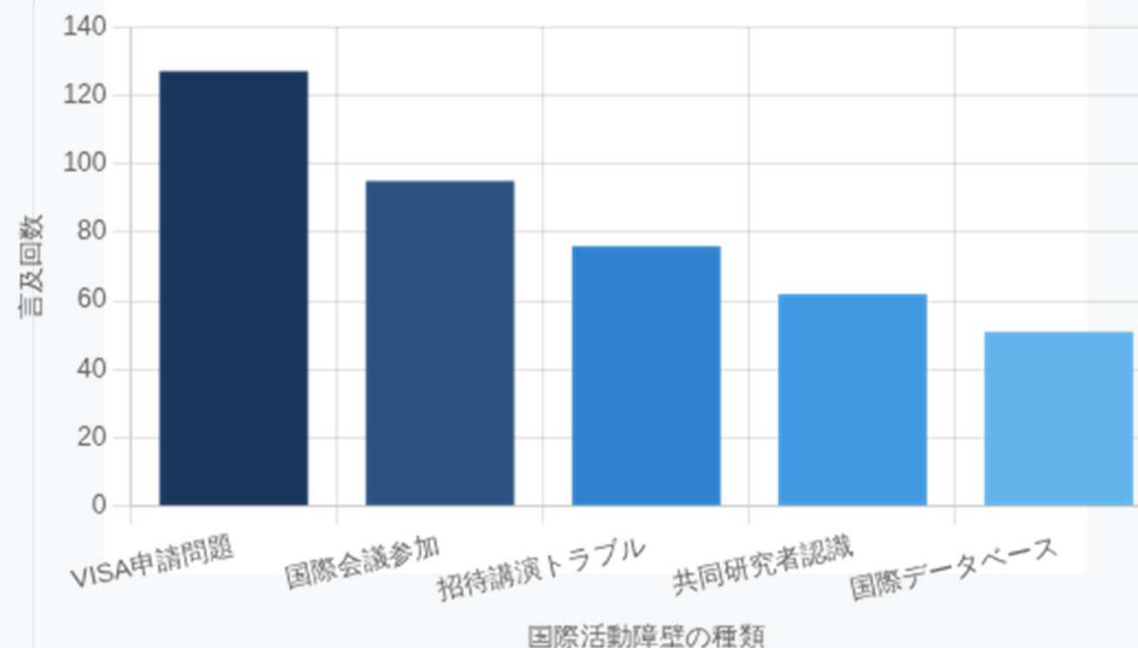
国際競争力への長期的影響
名前の一貫性欠如による国際共同研究・ネットワーク形成の障害

「パスポートと学会登録名義が異なり、海外渡航でフライト
搭乗拒否寸前になった。毎回身分証明の追加書類持参が必要
で精神的ストレスが大きい。」（40代女性・大学教員）

258回

国際活動関連の問題言及数

国際活動における主な障壁



「国際学会で招待講演を依頼されたが、パスポート名と
論文著者名が異なるため主催者に何度も説明が必要だった。最
最終的に講演直前まで本人確認に手間取り、研究発表の
準備に支障が出た。」（50代女性・研究機関）

通称併記のパスポートでの入国拒否等に関する当事者の声（9件）

- ・「パスポートに旧姓併記があるため、自動チェックインや入国審査で氏名不一致を指摘され、別室対応や長時間の説明を求められることが続いた。以後は戸籍名に合わせるなど、渡航前の書類統一に毎回神経を使っている」（女性・30代・国立大学）
- ・「海外研究機関での勤務手続きで旅券名と雇用書類の英字氏名が一致せず、ビザや保険の再申請・追加証明を要請された。旧姓／新姓が混在すると渡航スケジュールにも影響が出る」（女性・30代・国立大学）
- ・「国際学会の事前登録を通称で行い、当日は旅券（戸籍名）で受付したところ、本人同一性の確認に時間を要し、入場が遅延。以降は登録名とパスポート名の統一を徹底している」（女性・50代・公的研究機関）

一般に比べ、事実婚を選択する割合の高さに関する自由回答（132件）

- ・「研究者として姓の連続性が必要だった。夫婦別姓に非常に強い関心があり法律改正を待っていたが、一向に進まないためやむを得ず事実婚を選択した」（女性・40代・国立大学）
- ・「事実婚を選んだため、子どもをもうけることを躊躇し、実際子どもをもうけなかった。選択的夫婦別姓制度が通れば子どもをもうけるつもりだった」（女性・60代・国立大学）
- ・「研究名義の継続を理由に事実婚を選ぶ同僚が増えている。子の姓や学校での説明、社会保障の取り扱いなど制度面の不利益が課題として共有されている」（女性・30代・公的研究機関）

まとめ

自由記述等の分析から明らかになったこと

✓ 全世代的かつ広範な支持

⇒選択的夫婦別姓(67.2%)

⚠ 深刻な職業的影響

⇒学術キャリア全体に影響
(不利益・困難／手続き・事務
／職業・社会・個人的アイデン
ティティ)

🌐 本人証明困難

⇒国際活動での研究協力等を阻害

自由記述から得られた主な解決案



選択的夫婦別姓制度の早期導入（主に選択的夫婦別姓導入への賛成意見者）

研究者コミュニティからの明確なメッセージ：全世代・全性別が高い賛成率を示す。特に事実婚経験者（86.9%）は制度化を強く支持。



研究評価システムの改善（主に選択的夫婦別姓導入への反対意見者）

ORCID等の研究者IDシステム活用推進、姓に依存しない業績追跡・評価体制の構築。論文・研究業績の一貫性確保と適切な評価を実現。



国際活動支援の強化（主に選択的夫婦別姓導入への反対意見者）

本人証明手続きの簡素化、国際会議・共同研究参加での障壁排除。日本の研究者の国際的活動・存在感向上のための支援体制整備。

→ いずれにしても早期の制度改革が日本の学術研究力・国際競争力強化に必須

調査の意義と限界



調査の学術的意義

大規模サンプル（7,582名）と多様な自由記述を組み合わせた実証的エビデンス



研究視点の独自性

研究者・技術者コミュニティという専門職集団の視点から実態を可視化



調査の限界

調査範囲が学協会会員に限定されている点

自己申告データに依存するため検証が困難な点に限界あり



今後の課題

一般社会との比較調査など